

薬理学の基礎知識

【講義の目的】

精油に含まれる有機化合物は、精油が持つ作用を担保する。アロマセラピーにおける精油の構造、作用などについて、それらの分析法や抽出法について学び、精油の安全性や含有成分の重要性について学ぶことを目的とする。また精油含有成分が及ぼす人体への相互作用の概論を理解し、アロマセラピーの実践に応用することを目的とする。

【講義の概要】

精油に含まれる生理活性物質の役割について、成分自体の臨床応用が何故できるのかについて、近年の知見を踏まえて概説する。また各種の抽出法などについて学び、抽出法による精油の含有成分の違いについてその傾向と理由を理解する。さらに抽出された精油の評価として、どのように精油の含有成分を同定するのかについて学ぶ。またそれら成分の薬学的分類とその性状および毒性についても概説する。

【講義の到達目標】

1. 精油の臨床応用についてその成分を踏まえて理解する。
2. 精油の抽出法・分析法について十分理解する。
3. 精油に含まれる成分の薬理的な分類と、それに伴う性状について概論を理解する。

時限	テーマ	内容と到達目標	担当
1	精油の薬理学 1 薬理学と治療	一般的な薬理学の領域と薬物の分類法、含まれる主な分野について概論する。また、臨床応用に際しての精油の曝露法に伴う体内への取り入れの違いについて概説する。加えて疾患例を取り上げて精油に含まれる成分単体の作用について、主に細胞傷害性や脳内物質の分泌に伴う脳機能の変化を中心に解説する。	神保 太樹
2	精油の薬理学 2 抽出法と分析法	精油に含まれる各種の成分について、精油の抽出法（水蒸気蒸留法、圧搾法、真空蒸留法等）を学び、その成り立ちと抽出法による成分の変化について概説する。また抽出された精油の分析法について、ガスクロマトグラフィー質量分析などの分析法における手技や制度について概要を学び理解を深める。	荒川 秀俊
3	精油の薬理学 3 精油成分と作用	近代薬学の成り立ちにおいての植物学の寄与を理解し、また植物から抽出された物質が実際の医薬品となる経緯について簡単に理解する。また、精油成分自体にもこれら医薬品と近似する成分が含まれていることや、光毒性に代表される毒性を持ちうることに十分理解する。さらに脂肪族化合物やセスキテルペン類などの成分の区分について理解し、それらが匂いとしてどのような性状を持つかを理解する。	中島 基貴